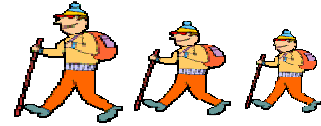




山行報告

◆納山会（山行日：12月7日（土）～8日（日））



Aコース参加者：La 砂川(延) SLa 多木 青山 井上 大谷 垣内 小山 瀬尾 高嶋 田口(末)
田口(善) 中嶋 平井

行 動 記 録：御嶽口 10:40(10:50 発)～大岳寺跡 12:33(12:35 発)～御嶽頂上手前分岐
13:05(13:35)～西ヶ嶽 14:35(14:40 発)～藤岡ダム分岐 14:50～駐車場 15:50



Aコース・御嶽口～御嶽～西ヶ嶽～藤岡ダムを歩いて 垣内

御嶽口で下車した男子5名女子8名で準備体操の後、登りはじめました。鳥居堂跡、大岳寺跡までは快適に歩いたが、そこから御嶽山頂までは手ごわい上りであった。

登りきった山頂のそばの岩場で少々遅いお昼を食べた。風もなく視界もよくて30分の食事時間の後、集合写真を撮り、西ヶ嶽に向かいました。この尾根筋はイノシシが土を掘り返し目を見張るすごい状態でした。さすが篠山の山だと感心したり、夜の猪を想像し怖いとも思いました。

大きなピークを3つ越えて、西ヶ嶽へつき、休憩のあと藤岡ダムへ向かいました。昨年もこの辺りで道迷いをしたので、気を付けていたつもりだったのに、階段が終わったあとそのまま谷を下りて行くところでした。後ろからの声で少し戻り右へ修正しました。この急な下りの階段が昨年は落葉で見えにくく、濡れて滑りやすく歩きづらかったのに、今年は濡れてなくて本当によかったです。集合時間の4時を20分も早く着きました。

無事に下山できた事と、この一年を感謝する山行になりました。皆様ありがとうございました。

Bコース参加者：Lb 澤田 SLb 貝塚(文) 阿江 金島 澤田(卓) 清水 砂川(美) 田羅間(勤) 時井 渡邊(俊)

行 動 記 録：大たわ駐車場 11:10～御嶽 12:10(12:50 発)～西ヶ嶽 14:00(14:15 発)～藤岡
ダム分岐 14:40～藤岡ダム 15:50



Bコース・納山会、在籍6年初めての参加 清水

【納山会を計画・企画をして頂いた関係者の方々、本日はありがとうございました。】

在籍6年初めての参加。お天気もよく順調なトレッキングでした。去年は雨だったので往生したようです。

リーダーは全員のスピードを見つつ、落ち葉により足元が滑る箇所は立ち止り、注意を促していましたヨ。大変良かった、特選です。（リーダーはリスクマネジメントの学習をしているみたい）

トレッキング中は、ゆっくり深まりゆく紅葉を楽しみ、遠くに見える山々を眺め、三嶽の祠にお参りし、ちょっとした感傷にひたりました。（三嶽の写真を見てください。みんないい顔していますよ）



山の獣は相当腹が減っていたのでしょネ。其処ら中、土を掘り起こしまくって、何があるのかな？「雨が降ったら崩れるのではないか」とブツブツいいながら歩いた。（六甲山の獣の方がまだ可愛い）

さて、始まりましたヨ“忘年会”泥鰯すくい、琉球琴、民謡（知らん顔しているけれど、持っているんですネ隠し芸）

みんなで踊った、炭坑節（2回も踊ったよ！）2013年、歌い納めの砂川美那子さん、その他大勢による“高御位山遊会の歌”を全員で合唱しました。

“仲間意識、飲んで騒いで、納山会”

Cコース参加者：Lc 上田 SLe 須増 三木(悦) 瀧原 田羅間(易) 中村

行動記録：大たわ峠 11:10～小金ヶ嶽 12:00(12:20 発)～大たわ峠 13:00(13:10 発)～御嶽 14:00(14:05 発)～西ヶ嶽 15:05 (15:10 発)～藤岡ダム駐車場 16:05



Cコース・三峰を登る

三木

入会三年目、納山会は二度目の参加です。コースは当日の天候の様子をみて決めようと思っていた。道中の濃霧もすっかり晴れて良い天気になりました。私は前回と同じ小金ヶ嶽へ行くCコースを選択した。大たわ峠の駐車場でバスを降りたら、初冬の澄んだ空と空気がとても気持ち良かった。

Cコースは大たわ峠の登山口から六人で出発です。静かな杉の木立をぬけた後は鎖やロープを頼りに岩場を巻きながら、岩稜の向こうに見える雄姿・**小金ヶ嶽**（725m）を目指します。頂上では360度の展望、大パノラマを楽しみながら食事をとりました。



大たわ峠に戻り、次は主峰の**御嶽**（793m）へと長い階段を登ります。御嶽の頂上では南東の遠望が素晴らしく、大きな方位盤を見ながら遠くの山々を確認しました。はるか東に見えるあれが京都の「愛宕山」と教えてもらい、はっきりと見えたので感激でした。

最後に目指す**西ヶ嶽**(727m)正面に見えているのに中々着かない。登ったり下ったりの連続です。やはり厳しい修験道の山々でした。でも、落葉した木立の間から見える景色を楽しみ、落葉を踏みしめながら歩く冬山の良さも満喫することが出来ました。(やっぱり冬の里山歩きは気持ちいいね!とTさん2人と共感した) 藤岡ダムへは16:00を少し過ぎましたが6人元気に下山。リーダーとメンバーのおかげで、今年も多紀アルプスの三峰を楽しく縦走出来ました。

下山後、新たんば荘では丹波篠山名物のぼたん鍋を囲み親睦会、芸達者な方々に大喝采でした。

多いに楽しませてもらいました。翌日の篠山散策では特産品の買い物、おなじみの酒蔵で試飲や、人気の食堂で昼食等、ゆっくりと篠山の街に触れ歩くことが出来ました。

参加者32名、2013年を締めくくる有意義な納山会でした。ありがとうございました。

◆高島トレイル 2回目・赤坂山



山行日：12月15日(日)

参加者：La 尾内 SLa 苦瓜 池尻 石田 井上 内海 大谷 狩集 北口 木村 切貫
Lb 砂川(延) SLb 瀬尾 篠原 島本 高嶋 田中 西口 三木(悦) 村上(敬)

行動記録

場 所	着	発
宝殿駅	6:40	6:45
加古川北		7:00
三木SA	7:10	7:20
大津SA	8:20	8:30
マキノ高原スキー場	9:50	10:15
(準備とストレッチ)		
ブナの木平展望台	10:50	11:00
(483.6m三角点)		
栗柄峠	11:25	11:30
赤坂山	13:00	
栗柄峠下	14:05	14:10
マキノ高原スキー場	15:00	
(ストレッチ)		15:10
マキノ高原温泉「さらさ」	15:30	16:40
道の駅トイレ休憩	17:15	17:25
京都東	17:55	
桂川SA	18:10	18:15
宝殿駅	19:30	





雪の中の山行、高島トレイル(赤坂山)を終えて

篠原

先日からの寒波襲来の為、すごい冷え込みだったので寒さ対策だけ万全にして、今回の高島トレイルに臨みました。

朝の天気予報を確認していなかった私は、今日は最高の登山日和になると楽しい気分でバスに乗り込みました。しかしながら、大津インターを抜け、湖西道路を走るバスの中から、右側には琵琶湖の美しい景色が広がる一方、左側といえば山の上空に黒い雲が張り出していました。「あ～あ、雨か～」とがっかりした気持ちのまま、マキノ高原スキー場に到着しました。

早々とカッパに着替え、冷たい雨の降る中ストレッチを済ませて、いよいよ出発です。

出発して10分も歩くと登山口に着き、そこから長い長い階段を登り終えてからが大変でした。

登山道は雪と雨でシャーベット状態になり、そのぬかるみを右へ左へと避けながら歩みを進めて行くと、雨は曇になり、そして雪へと変わっていきました。2時間も歩くと雪はもう50cm近くも積もっていて、新雪を踏みしめながら一步一步進んで行きました。

途中、風も雪も一時的に止んだ時の一面白銀の中での歩行は童心に返り心ワクワクするものがありました。

赤坂山山頂では猛吹雪で、立っているのも困難な程で、記念写真もそこそこに当初の予定コースを変更して、登って来た道を引き返すことになりました。

それでも下山を始めてすぐ、視界ゼロの状態から一部分に光が差し込み、琵琶湖が眼下に見えた時には感動しました。この悪天候の中、頑張って登った私達に対するささやかなご褒美だったのでしょか。

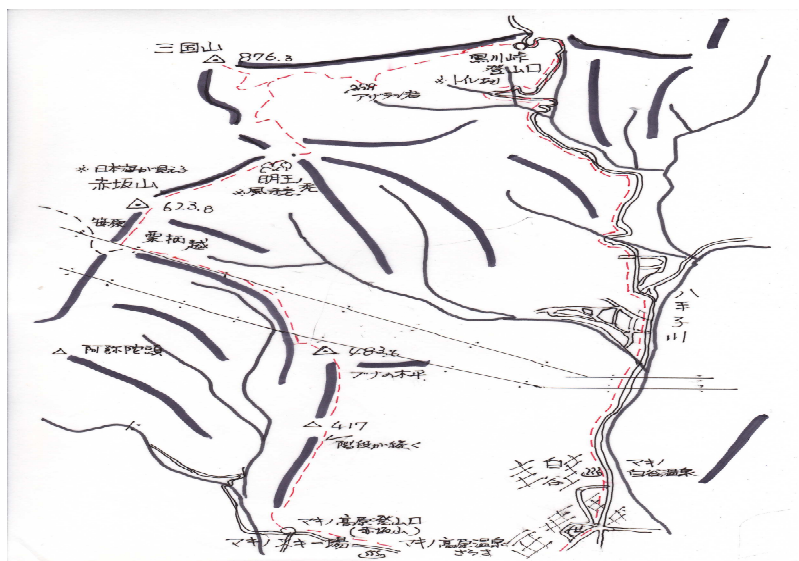
下りは雪のおかげでクッションが効いて歩きやすく、スイスイと歩みを進めていきました。早く下山したいので昼食も摂らず休憩時の行動食のみで先を急ぎ、後半のシャーベット状態のぬかるみを四苦八苦しながら進み、やっと午後3時に登山口に下山して来た時はホッとしました。

下山後は温泉『さらさ』で芯まで冷えきった身体を湯に肩まで浸かり、足の先から頭の先まで温まって、思わず「ごくらく～ごくらく～」と口から出てしまいました(笑)

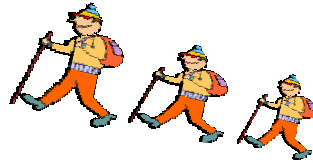
今回で高御位山遊会入会后、2度目の山行でしたが、私にとって貴重な経験が出来、確実に記憶に残るものとなりました。

今度は春頃、天気の良い日に(そんな都合良くは行かないか!?)、ゆっくりと景色を楽しみながら、是非もう一度行ってみたいと思います。

色々大変な山行でしたが、終わって見れば全員無事に下山出来た事も含め、楽しい一日を過ごすことが出来ました。リーダーを含め、皆様にお世話になり、ありがとうございました。



◆クリスマス山行・摩耶山



山 行 日：12月22日(日)

参 加 者：La 尾内 SLa 垣内 上川 兼澤 狩集 切貫 澤田(律) 清水 砂川(延) 瀬尾 高嶋
Lb 瀧原 SLb 西村 大石 中村 大谷 関山 田羅間(易) 村上(敬) 山本(喬) 山本(敏)

行 動 記 録

場 所	着	発
阪急六甲駅		9:00
護国神社	9:15	
杣谷堰堤 (小休)	9:30	9:40
山寺尾根への分岐	9:50	
A班：掬星台	11:00	11:15
穂高湖 (昼食)	11:45	12:05
掬星台	12:35	12:40
B班：掬星台(横道へ11時5分バック 11時20分登山道へ)		
掬星台 (昼食)	11:35	12:20
摩耶山	12:30	
掬星台 (小休・合流)	12:40	12:45
学校林道への分岐 (小休)	13:35	13:45
雷声寺 (ストレッチ)	14:37	14:50
新神戸駅	15:05	



クリスマス山行 山寺尾根から摩耶山(六甲)

うえかわ
上川

今年最後の山行、六甲・摩耶山に22名で行ってきました。

阪急六甲駅に9時に集合し、そのまま徒歩で街中を抜け護国神社前を通り、急坂の住宅街を経て長峰霊園横の登山口に到着。ここからA班、B班に分かれて摩耶山を目指して出発しました。

山寺尾根から掬星台までのルートはその名の通りずっと尾根道を登っていくことになるが、急坂も比較的多く息が上がってきてバテ気味になった頃にタイミング良く休憩を取って頂けたので助かりました。

掬星台の手前0.3kmのところではなぜかB班が別の方向に進んでいるのを見てあれっ?と思いつつもA班は前方に見える急な階段道を登って11時頃に掬星台に到着しました。思いのほか山頂は寒くてあわてて防寒具をザックから取り出して着用しました。

夜景で有名な展望台から神戸の街並みや海を眺めながら暫くB班を待っていましたが全く登ってくる気配がなく、A班のみで穂高湖に向かい、湖のほとりで昼食をとりました。

その後B班と連絡が取れ、掬星台で無事に合流することができ全員で記念写真。

曇が降り始めたので下山することになり、学校林道を経て新神戸駅方面に向かいました。学校林道分岐で一度休憩をとり途中我々が向かう三宮方面の景色を眺めながら、^{らいせいじ}雷声寺境内に下りてそこでストレッチをして山行終了。

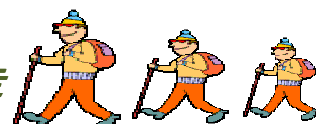
新神戸駅に止まっているN700系を横目に見ながら、地下鉄で三宮に向かいZ A・K O・B Aでクリスマス会を行いました。ビールで乾杯してから次々と運ばれてくる料理を食べながら、メンバーの方々と色々な話が出来て楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

砂川会長・尾内リーダー・瀧原リーダーをはじめメンバーの皆さま本当に有難うございました。

思い返せば、昨年12月に山遊会に入会して早一年が経ちました。この一年間に参加した山行や学習会での天気図、読図、ロープの結び方等の勉強はとても有意義なものでした。また、山遊会を通じてたくさんの方と知り合えたことも大きなプラスでした。

来年はもう少し体力をつけて高い山にも挑戦しながら山行を楽しみたいと思います。

◆新春トレ(1月3日(金))・高御位山～桶居山縦走



参加者(32名)

1班		2班		3班		4班		アンカー	
L	尾越	L	荘所	L	澤田(律)	L	上田	L	砂川(延)
S L	西口	S L	待場	S L	苦瓜	S L	瀬尾	S L	大瀬
	尾内		切貫		阿江		石田		垣内
	長谷川(孝)		島本		大石		狩集		渡邊(俊)
	三木(悦)		高嶋		北村		佐々木		
	村上(敬)		田中(美)		澤田(卓)		関山		
	和田		中嶋		藤田		田口(末)		

行動記録

場 所	1 班		2 班		3 班		4 班	
	着	発	着	発	着	発	着	発
新池駐車場		9:20		9:15		9:20		9:17
鉄塔下			9:35	9:40	9:38	9:41	9:37	
高御位山	10:10		10:05	10:15	10:05	10:15	10:07	10:15
桶居山への分岐	10:50		10:55	11:05	10:55	11:30	10:50	
鉄塔下	11:50							
桶居山	12:20	12:40	12:25	12:50	12:35	13:00	12:25	12:55
中池	14:00		14:15	14:30	14:25	14:30	14:10	14:20
209mピーク							14:55	15:05
鹿島神社	15:20		16:00		16:00		15:35	
新池駐車場	16:00						16:10	



1班 穏やかな一年の始まり、新春トレーニング

尾越

一年の始まりの新春トレーニングに久しぶりに参加しましたが、穏やかなお天気で昼間は汗ばむくらいの暖かな一日でした。

新春トレのリーダーとして、1班のメンバー全員が最後まで、無事に楽しく歩きたいと思いましたが、桶居山を正面に見るまでは遠く、桶居山から池に下りるまでのコースに不安を持ちましたが、ベテランのメンバーから「大丈夫やで！」の声に安心し、池に挟まれた土手を過ぎ、鷹ノ巣山登山口から主尾根に上がる最後の上りでは「テンポ良く登れた」「楽しかった」「桶居山は初めてだったけど楽しかった」と感想を頂いて嬉しかったです。

お陰様で最後まで無事に楽しく歩くことができました。ありがとうございました。パーティーで歩くことの楽しさを改めて感じ、今年も会の方と歩けることを楽しみにしています。



2班 初めての新春トレーニングに参加して

田中

昨年は自信がないため、新春トレーニングを見送りましたが、今年は思い切って参加してみようと、当日参加ですが集合場所へ車を走らせました。

歩行時間が7時間の長道、最後まで同班の方々と完歩出来るか不安でしたが、コンディションはまあまあ良好、天気の方は一日中風もなく晴れわたっていて汗ばむ程の絶好の登山日和。

4班に分かれてさあ出発。初めての長尾新池駐車場からの歩行コース、いつもの高御位山ですが新鮮な面持ちで登っていきました。

高御位山を通過、桶居山を目指す。そこに見える桶居山だが幾つもの山をのぼり越えてやっと辿り着く。岩山で鋭く直立した様な姿でそびえ立っていて、四足でないと登れない所があり足元に注意しながら登りきる。頂上で昼食となりましたが、まだコースが半分残っているのでゆっくりする暇もなく出発。別所池まで下山。これからまだ、2つの山を越すとこの事“大変だ”頑張るしかない。百間岩に来た時は後少しだと力が出てきた。

どうにか鹿島神社まで下山出来た。お詣りして「今年も元気で山行ができます様に」と、お願いをしてきました。リーダーさん、2班の皆さんありがとうございました。今年も体力にあった山行を見つけて参加して行きたいと思っています。これからもよろしくお願い致します。



3班 新春トレーニング 高御位山～桶居山縦走

大石



桶居山への新春トレには、二度目の参加です。

13キロですが、アップダウンばかりでおまけに、一度下に降りてまた登りかえさなければいけないので、なかなか手ごわいコースなのです。初めての時は、コースが把握できてないから大変でした。今回は経験あるから、まあ大丈夫かな…。

なんてダメダメ。山を舐めていたらだめだ！新春から気を引き締めてGO！まずは、高御位山頂で新年の無事をお祈りして、おみくじをひくと、大吉です！嬉しい気持ちで、先に歩みを進めます。いつもの縦走路から、桶居山への分岐を過ぎハイカーが少なくなってどんどん足取り軽く

前へ、前へ。私の班は最後に到着して記念撮影。

さあ昼ごはんとなりましたが、弁当が見つからない…。なんで？皆さんにおにぎりをわけてもらって恐縮です。ところが上着の下から、弁当包発見！誠に申し訳ない。再度恐縮です。早とちりもはなはだしい。新年早々からドジを披露してしまいました。おみくじの大吉にうかれていたらダメですね。

午後は、なんとか歩き通せて大賑わいの鹿島神社にゴールできました。7時間の山歩きを新年にトレーニングできて、今年も良い山行を願えることができました。

こんなドジな私ですが、今年もよろしくお願いします。



4班 初めての新春トレ、頑張った35,000歩！！

田口

1月3日快晴、絶好の登山日和、今回初めて新春トレに参加した。

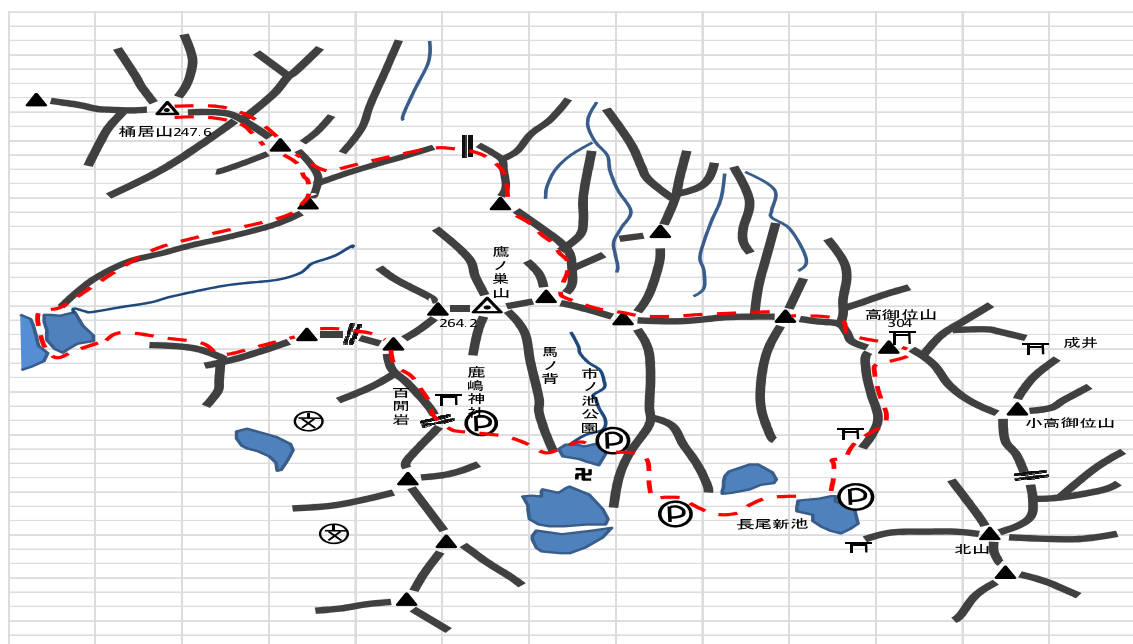
いつもの高御位山ではあるが、まだ一度も行った事のない桶居山と所要時間7時間に一抹の不安がないわけではないが・・・、桶居に行く時に少し険しい所があると聞いていたので、覚悟して行ったが、思った程の事もなく無事クリア、いつも眺めている山の裏側を見て、又新しい高御位山の姿を見る思いである。

朝のストレッチに始まり終わりのストレッチまで35,000歩我ながらよく頑張った。



一緒になったI氏が「今日は、自分で自分を褒めてやりたい！」と云っていたが実際その通りだと思った。

最後のストレッチでもいつも苦手な片足上げで、今日はフラフラせずきちんと出来たのも嬉しかった。今日の天気と一緒に自分の気持ちも快晴の一日でした。



山行報告



◆曾爾高原・倶留尊山

山行日：11月4日(月・祝)

参加者：La 須増 SLa 待場 青山 石田 大住 岡本 田口(末) 田口(善) 時井 苦瓜 野村 宮崎
Lb 佐々木 SLb 瀧原 阿江 尾内 大石 粕谷 小山 中嶋 三木(勉) 峯山 村上(敬)

行動記録：山電高砂駅 6:30 → J R 宝殿駅 6:50 → 曾爾高原 10:10 ~ 35 (ストレッチ&トレ)
亀山峠 11:00 ~ 展望広場 11:20 ~ 二本ボソ 11:40 ~ 倶留尊山 12:20 ~ 50
(昼食) ~ 二本ボソ 13:25 ~ 展望広場 13:50 ~ 亀山 14:05 ~ お亀茶屋 ~
青少年自然の家駐車場 14:55 ~ 15:00 (ストレッチ) → ファームガーデン 15:10
~16:10 (お亀の湯に入浴) → J R 宝殿駅 19:40 → 山電高砂駅 19:55



そ に こうげん くろそやま
曾爾高原・倶留尊山

阿江

楽しみにしていた曾爾高原のススキの大海原と紅葉の山行。奈良県と三重県にまたがる国定公園で、ススキは関西随一と言われるほどの名所です。

今日は雨も上がり、一番電車にて友と加古川駅で乗り換え、宝殿の集合場所に行きました。出発して車の渋滞が少しありましたが、後は順調に曾爾高原入口駐車場に着きました。

準備体操の後、お亀池から倶留尊山に向け出発しました。一面見渡す限りのススキの群生は見事でお亀池周辺には「曾爾高原 山灯り」として灯籠がありました。日暮れの灯りも幻想的な風景だろうなと思いました。看板に「すべりやすいので注意」とありました。雨上がりなので、注意して歩かないといけないと思いながら長い階段を上り、紅葉も見ごろで、見晴らしの良さえぎるものもない高原の大展望でした。

亀山峠から岩の多い少し険しい登山道を足元に気をつけて登りました。展望広場でゆっくりとお亀池や高原一帯、遠くの山々を眺め楽しみました。

二本ボソ手前には管理小屋があり、倶留尊山の山頂付近は、途中からは私有地になるので山頂まで行くには入山料が要りました。

紅葉の落ち葉を踏んで、この落ち葉の色とりどりのまあ綺麗かったこと、まるで花のじゅうたんのようで心うきうきでした。又、岩場でロープを持ったりしてすべりそうで大変だった所もありました。途中紅葉の美しいポイントで止まってもらい紅葉を満喫しました。



倶留尊山に到着。見晴らしは良くなかったですが、イスがありよい休憩場所で昼食です。

A班はすでに弁当を食べていて私達B班も一緒に賑やかに楽しく食べました。

食後集合写真を撮り、登ってきた道を引き返して、下りは亀山山頂の近くで強風に遭いました。又雨もパラパラしましたが、すぐに止み助かりました。丸太の階段があり、木の上に足を置くと滑ると注意があったにもかかわらずスベルああ・・・今日も又ツルリン。

帰りには温泉「お亀の湯」ですごく混んでいましたが、ゆっくり浸かり汗を流して、とても良い温泉で体ツルツルさっぱりして帰路に着きました。

いつも皆さんに支えてもらいながらの山行でとても感謝しています。

◆増位山～書写山

山 行 日：11月16日(土)

参 加 者：La 上田 SLa 苦瓜 井上 内海 尾内 狩集 河合 北村 高嶋

Lb 山本 SLb 西口 兼澤 坂田(俊) 田中(美) 長谷川(易) 平石 村上(敬)

行 動 記 録：野里駅 8:57～東尾根登山口 9:15(9:18 発)～増位山 9:56(10:00 発)～随願寺
10:20(10:35 発)～広峰神社 11:18(11:30 発)～氷室池 12:55(13:15 発)～書写山置塩口
13:45～円教寺摩尼殿 14:50～境内散策～15:50～ロープウェイ山上駅 16:05～
横関バス停 16:45



増位山・広峰山から書写山へ

村上

高気圧に覆われておだやかな秋の山行日和です。

野里駅から街中を歩き、増位山自然公園登山口で衣服調整したあと、杉木立の中を登り始めます。一時間ほどで、次第に雑木林となり、秋の里山を歩いている心地良さです。展望台からは高御位山が望めます。どこからでも高御位山をつい探してしまいます。林を抜けて榊原政那夫婦の墓所に参り、梅林を抜けて随願寺へ、山中とは思えない程の大寺院です。境内には冬に向かって咲く「十月桜」がきれいに咲いていました。16代姫路城主、榊原忠次の墓所は「塔・墓碑・墓標」を配置する正式なものです。亀趺にのる墓碑は、碑文が長く全て間違いなく読むと碑石の「カメ」が動くという言い伝えがあります。

広峰神社への山道の谷側は石積みがされていて歩きやすく、山道の樹木の切れ間から姫路市街・瀬戸内海が見え楽しい山歩きです。広峰神社は本殿拝殿ともに正面の幅が大きく圧倒される大きさです。

神社の裏側に「こよみ」を司る神様が鎮まっておられます。広峰山から急坂を下り、沢を右に左に渡りながら、しばらく下る。道迷いに注意の下山道です。水が少ない氷室池の上でちょっと遅めの昼食。

山富団地沿いの美しいもみじを見ながら、うらうらと夢前川に出てホットしたのも束の間、書写山置塩口から竹林の中を登り始め書写山へジグザグに上って、一時間程で秋色に染まった円教寺境内へ。一時間の休憩、私のグループはお土産物屋へ、私は古代米を使ったさくら色の甘酒をおいしく頂きました。境内をゆっくり下って展望台では姫路市を一望、足元も軽く夕日を浴びながら下山しました。

お天気にもぐまれ姫路の歴史をめぐる楽しい山行でした。皆様、ありがとうございました。



◆大倉山読図山行

山行日：11月24日（日）

参加者：L和田 SL澤田(律) 支援スタッフ：佐々木 野村 三木(悦)

読図参加者 A班：北口 村上(敬) 峯山 B班：兼澤 小山 島本

C班：尾越 澤田(卓) 田中(美) D班：金島 上川 関山

E班：香川 垣内 平井

行動記録（A班）

場所	着	発
教育キャンプ場		9:22
峠の分岐点	10:38	
亀の池の北端	11:00	11:10
峠の分岐点	11:27	
新池の東端（昼食）	11:40	12:08
新池の南西端	12:15	
大成池の北端	12:25	
新池の西端	12:35	
大倉山頂上	13:12	13:20
峠池南端	13:45	
バス峠池駐車場 (他のG到着待)		14:55



大倉山読図山行に参加して

垣内

送付されている地形図に番号が1～17番まで打っており各ポイントに何があるか補足説明もつけてある。地形図でピーク、尾根、谷筋、池、高度を確認することができ事前説明会も行われました。

当日の参加者は15名で3人ずつ5班に分かれL、SLと支援スタッフの3名が一人ずつ各班に付いて頂きました。1番の教育キャンプ場からA、B、Dの班が、反対の17番の峠池からC、E班が間隔をおいて出発しました。私たちは17番の峠池からの出発です。シルバーコンパスで方向を確認しつつ班の3人でポイントを確認しあい、支援スタッフの助言を受けながら宝物をゲットするように地図上の番号を通過していきました。一緒の組になった2人とは初めてでしたが気軽に会話もでき15番大倉山山頂に着き、お昼を亀の池の堤で食べました。暖かい秋陽のもとタコの煮つけ、温かいコーヒー、果物を他のグループからいただいて満腹。ご馳走様でした。

登山するうえで地図読みは大変重要である。リーダーについて行くだけでなく自分で地形を確認することの大切さ、面白さをあらためて認識した1日でした。リーダー、支援スタッフの皆様ありがとうございました。

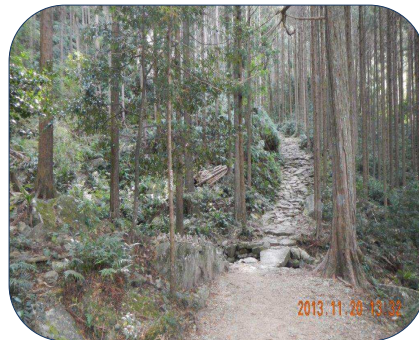
◆熊野古道

山行日：11月20日(水)～11月21日(木)

参加者：La野村 SLa瀬尾 大谷 砂川(美) 西村 村上(敬) 渡邊(俊)

行動記録

場所	着	発
11月20日 (1日目)		
尾鷲駅	12:42	12:45
鷲毛登山口	13:00	13:15
夜泣き地蔵	13:30	
馬越峠	14:20	
天狗倉山	14:45	14:52
馬越峠	15:20	15:25
馬越公園	15:30	
尾鷲神社	16:17	
11月21日 (2日目)		
尾鷲駅	7:37	
三木里駅	7:54	8:07
登り口	8:50	
江戸道分岐	9:12	
525mピーク	10:12	10:22
健康とやすらぎ広場	10:40	10:50
八鬼山 山頂	11:00	11:05
九木峠	11:20	11:40
駕籠立場	12:35	12:40
下山口	13:15	
熊野古道センター	13:35	15:40
大曾根浦駅尾鷲駅	16:00	



熊野古道、伊勢路を歩いて

瀬尾

美しい石畳の道は、祈りの道。熊野古道は、熊野三山や霊場を結ぶ参詣道である。

巡礼者は伊勢や奈良、京都などから幾つもの峠を越えて、ここ熊野まで祈りの旅をしたのです。

平安時代から江戸時代を経て、世の中が不安定であった時、庶民だけでなく、身分の高い貴族や法皇達までも参詣している。私達は伊勢路を歩いてその足跡を辿った馬越峠と八鬼山峠を越える二つのルートを二日間かけて歩いた。

20日朝、姫路を出発し、JRと近鉄を乗り継ぎ、昼過ぎに尾鷲駅に到着。鷲毛登山口まで移動。長く続く石畳の上を歩いて一時間、馬越峠に到着。途中、お地蔵様や一里塚跡などがあり

当時を偲んで歩いた。峠でザックを置き天狗倉山（522m）に登る。頂上では、尾鷲湾と島々が一望出来る大きな岩の上に立ち素晴らしい眺めを楽しんだ。馬越公園まで下り、尾鷲神社に参拝し、宿泊のホテルへ。夕食は新鮮な魚料理。美味しかったです。

二日目の21日、7:37分発の電車を出発。2班に分かれて（A班は北側から、B班は南側から）二つ目のルート、八鬼山峠を目指した。南側の三木里駅を降りて海岸に向かい、美しい海岸を歩いて登山口へ。沢沿いの道を名柄一里塚跡や籠置き場を経て江戸道を歩いた。茶屋跡があり、見晴らしのいい展望台もあって、穏やかな海を眺めて東の間の休憩を取った。

八鬼山峠に到着。山頂を探して（見過ごしてしまいそうな場所にあった）見つけて写真を撮り、峠をあとにして九木峠でA班と合流。一緒に下りた。このルートはかなり厳しい道だった。途中、いくつも供養塔があり、行き倒れになった人もあったらしい。

下山後、熊野古道センターへ行き、資料館で熊野古道の説明を受けて、巡礼者の装束などを見て回った。ここで驚いた。石畳の工法だ。ただ、石を敷き詰めただけではなく、深く掘り、細かな石を積み重ね、その上に平らになるように大きめの石を詰めて置き、頑丈な石畳の道に作り上げたことだ。かなり高い技術だ。雨の多いこの地、決して崩れないそうだ。世界には有名な石積があるが（インカ帝国の神殿など）日本人も素晴らしいです。この石畳みに限らず各地の城の石垣もすごいでしょ。ここ熊野でも、日本人の偉さを感じました。

熊野古道は霊場への道。杉木立の中を歩くと心が落ち着きます。次はどの道を歩こうか。

野村様、渡邊様、一緒に参加された皆様、お蔭で楽しい山行でした。有難うございました。



“祈りの道” 熊野古道 伊勢路を歩く

砂川(美)

“神様は心の中にある” そんな事を親から言われ育った私は、あまり信仰心はなかったが、親しい人の死や、年を重ねるにつれて、最近は神様や仏様のことが気になる。本当に神様がおられたらと思うが、最近の津波や原発事故、フィリピンの台風などがあると“神仏もないわ”と思ってしまう。

子供は教会で結婚式を挙げ、孫は神社にお宮参り、最後はお寺のお世話になるのか……。 “八百万の神” のこの国に生まれて、何処へ行っても手を合わせて生きてきた。山に登れば、こんな所にまでと思われるくらい、山岳信仰のお社が立っているし、昔々から日本は山に神が宿ると信じられ自然とともに生きてきたのだろう。

この度、熊野古道「伊勢路」の山行に参加した。「紀伊路」は平安中期から鎌倉期にかけて盛んに行われた法皇や上皇らの御幸ルート。これに対して江戸時代以降、盛んに歩かれるようになった「伊勢路」は伊勢参宮を終えた旅人や西国三十三ヵ所めぐりの巡礼者たちが辿った庶民の道、確かに荒削りで、いくつもの険しい峠を越えてあこがれの地、熊野三山に参る為の道であった。

このたびは尾鷲を中心に二つのルートを2日間歩きました。一日目はみんなと一緒に馬越峠道、天狗倉山からの尾鷲湾の絶景も望み楽々。

二日目はゆっくりズム隊長(?)のWさんと、ゆっくりズム隊員の私の2人は勾配のきつい石畳が延々と続く為、逆方向から登り、途中で健脚組5人と合流しました。それでも大きな石を傾斜に積み上げた道が深い杉林の中に続き勾配もかなりきつい。ゆっくりズム組は、ゆっくりでもいいけれど、何としても転んだり、すべったりしたらダメなので、足元ばかり見て慎重に登る。

時々顔を上げると本当に“暗闇峠のオオカミ”の話ピッタリの道で、かつては、山賊やオオカミが出没して巡礼者を苦しめたことがわかります。行き倒れた巡礼者供養墓碑もあちこちにあります。

にぎやかな山行もいいけれど、静かに昔に思いをはせて歩くのも気に入りました。

ヨーロッパでも再生と祈りの道があり、多くの人が目的地をめざして歩いています。人間の心は、きっと変わらず健康や家族や平和への祈りは同じなのでしょう。

それでも権力者の力もあったが、この大きな石を山から切り出し、山深い紀伊の国の山中を切り開いた人々の思いは何だったのだろう。

徳を積み、平和を祈り、救いを求める信仰の力が一番だと思うけれど、この労働や祈りへの道を歩くことで、神の力を信じ健康をいただき生きてきた素直で律儀な民の心を見る思いがした。

私たちが確かに山に登って力をもらい健康をもらっていることを実感している。

自然を大切に、山に感謝しなければならない。

今回初めてのリーダーNさん、本当に交通の便から、宿、食事まで全力投球でありありがとうございました。これからも、ぜひ、よろしくお願いします。

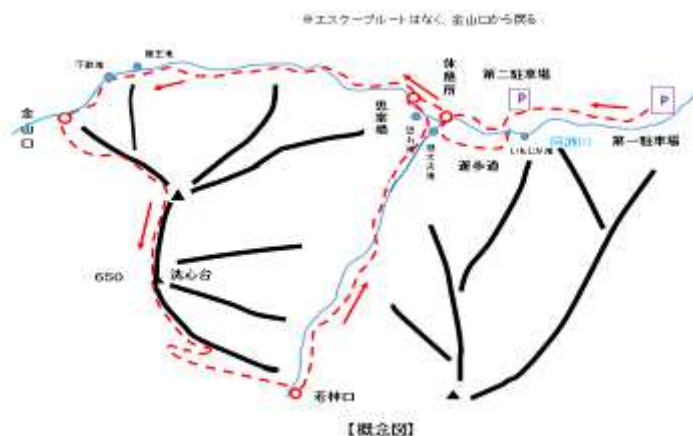
◆阿瀬溪谷

山 行 日：11月30日(土)

参 加 者：La 瀬尾 SLa 西口 青山 尾越 狩集 佐藤(玲) 篠原 中村 村上(敬) 山下(純)
Lb 垣内 SLb 苦瓜 有本 池尻 井上 上川 粕谷 川上 西村 三木(悦)

行動記録

場 所	着	発
第一駐車場	8:37	8:50
第二駐車場(体操)	9:00	9:05
休憩所(トイレ休憩)	9:14	9:24
思案橋		
金山口(分岐点)	10:04	-
洗心台(写真撮影)	10:45	10:55
若林口	11:54	-
休憩所(トイレ休憩)	12:25	12:28
第二駐車場	12:37	-
第一駐車場(体操)	12:40	12:47





阿瀬溪谷・滝めぐり

三木

紅葉とやまめ料理に誘われ11月の女性委員会主催の山行で豊岡市にある阿瀬溪谷へ行ってきました。11月30日北部（豊岡）地方の天気は晴れ・気温14℃/4℃・降水確率10%です。

阿瀬溪谷は金山峠と蘇武岳を源とする阿瀬川の上流部一帯の溪谷で阿瀬四十八滝と言われる大小様々な滝と広葉樹の原生林からなる景勝地である。「ひょうご森林浴場50選」「ひょうご風景100選」にも選ばれているとても素晴らしい所でした。

駐車場近くにある四十八滝の五漠の一つ「いもじが滝」が最初に見えてきました。（滝の名前が珍しいので由来を調べてみたら鋳物師（いもじ）が滝の美しさに見とれて立ちすくんだとありました）紅葉の見ごろは過ぎていて遊歩道は紅葉の落葉でいっぱいです。モミジのじゅうたんを踏みしめながら出発です。五漠二つ目の滝、落差25m水量豊かで優美な「源太夫滝」を後に思案橋から反時計回りに周回するハイキングコースを歩きます。五漠の他にも沢山の小さな滝や倒れ岩と呼ばれる巨大な岩を見ながら進みます。「龍王滝」「不動滝」を過ぎ関西電力の取水口辺り迄行くと雪景色でした。山行の二日前豊岡地方は雪の情報でした。この地方の冬の早さを感じます。少し進むと蘇武岳への登山道につながる金山口です。標柱には右は蘇武岳とあります。私達は左の洗心台方面へ行きます。これから急な登りになります。九十九段？の階段があり名前が白寿階段とありました。息を切らしながら登り詰めた所に切り株で出来た椅子があり、ここは一休亭と名前があります。随所のネーミングがユニークでした。

少し先の松風園で一休みして、次はこの辺りで一番高い洗心台（650m）を目指します。洗心台に着くと展望が良く蘇武岳だろうか？山並みが綺麗に見えました。皆揃って記念写真を撮りました。景色も笑顔もバッチリです。

洗心台からの下りで少し道迷いがありましたが「迷った時は元へ戻る」リーダーと皆の判断で早めの解決となりました。地形図を読む難しさを改めて実感しました。いい勉強になりました。

下りルートは足首まで沈む落葉のじゅうたん道を歩き、急勾配の苦楽坂の階段では前を歩く方が落葉を掃ってくれたので歩きやすく助かりました。下りきった所が若林口でこれより支流の若林川沿いに断崖滝や断崖幽谷と名がある谷を覗きながら下ります。深く切れ込んでいるので足がすくみます。だいぶ下ったところからは落差の小さい美しい滝が次から次と楽しませてくれた。終盤の「滑滝」や「五色なめら」は東北の奥入瀬を思わせる感じでした。四十八滝（数えてませんが・・・）それぞれに特徴ある滝を満喫し、コースの周回を終えて思案橋に戻って来ました。初めて阿瀬溪谷を訪れましたが県下にこんな素晴らしいところがあるのを知り感動しました。



歩いた後は次の楽しみが待っています。やまめ料理「阿瀬」での会食です。期待通りどれも美味しい料理です。いろいろを囲み、やまめや豆もちを焼きながら談笑し親睦をはかりました。昼食後は豊岡市出身の植村直己冒険館の見学をして彼の冒険行や生涯の記録映像と実際に使われた装備品の展示を見て世界的冒険家の功績に少し触れてきました。溪谷ハイキングと会食、冒険館の見学と大満足の山行でした。

最後に立案を計画してくれたリーダーに感謝します。お疲れさまでした。

◆トライやる野外活動・荒井中学校

砂川(延)

今年も11月は高砂市立荒井中学校のトライやるウィークの季節となりました。毎年10人前後の生徒を受け入れていたが、今年は依頼する事業所が増えた関係から初めて受け入れる生徒が3人でのトライやるとなった。

期 日：2013年11月11日(月)～15日(金)

参加生徒：3名(北川正起、神田直希、木村匠汰)

***11月11日(月)** 例年と同じに中学校の図書館を会場にオリエンテーションで自己紹介から始まる。地形図1/25000加古川で簡単に地図の見方を説明し、日程ごとのコースを地形図上でたどり計画書を検討した。昼休みには、トライやるの足として使う自転車の空気圧、サドル高、ブレーキの効き具合を確認した。最後は最終日に加古川漕艇センターで昼食を作るメニュー(カレー)の材料を確認しておく。

・指導ボランティア：砂川(延)、瀬尾、渡邊(俊)

***11月12日(火) 播州の山を歩く(1)高御位山の縦走**

例年通り、荒井中から魚橋奥の石切場から入り高御位山を目指す。高御位山から鷹ノ巣山、百間岩、鹿島神社からJR曾根駅まで、ほぼ高砂市の高御位山縦走コースを歩く。今年から高砂市のコミュニティバスが鹿島神社に入らないためJR曾根駅まで歩くことになった。

・指導ボランティア：内海、澤田(律)、瀬尾、西口、和田

***11月13日(水) サイクリング：県立志方七ツ池自然公園へ**

高砂文化会館裏の河川敷公園に集合して出発する。加古川右岸自転車道を一路、最終日に予定している加古川漕艇センターを目指して東進する。一部道を間違ったりしながら漕艇センターに到着し、15日にお世話になる挨拶によると、上荘中のメンバーがやはりトライやるで来ていた。漕艇センターを後に“みとろフルーツパーク”で温室の熱帯植物を見たり、丘から瀬戸内を眺めたりして休憩する。その後は一路平荘湖の湖岸自転車道を七ツ池公園に向かう。公園のベンチで皆で弁当を囲む。帰りは平荘湖西岸の道路をウェルネスパークに寄り道しながら、朝の河川敷公園に帰る。

・指導ボランティア：大谷、砂川(延)、待場、三木(勉)、西口

***11月14日(木) 播州の山を歩く(2)石の宝殿から日笠山**

荒井中の北に見える地元の山竜山を目指して歩く。観瀆処から頂上に上がり播州平野を流れる加古川支流の荒井川、法華山谷川を眺める。石宝殿に下り浮石や、古い石棺を見た後、日笠山を目指して、高砂消防署、曾根神社経由で日笠山に上がる。昼食後、JR曾根駅裏から豆崎奥山に上がり鹿島神社に下りる。JR曾根駅からバスで荒井中に帰る。

・指導ボランティア：内海、大谷、砂川(延)、瀬尾

***11月15日(金) 加古川の清流で漕艇にトライ**

当日は朝から天気が悪く出発時間を1時間遅らせてのスタートとなる。出発場所の河川敷に一人がなかなか現われないので少し気がもめる。生徒は雨具をつけていない者もいる。

小雨が止まないで3人を車に乗せて漕艇センターに向かう。漕艇センターに到着しサポートのメンバーも揃ったが、雨が止まないため取り敢えず昼食のカレー作りに取り掛かる。午後から天気も回復したので上荘中のメンバーにナックルフォアのレクチャーを受け、サポートのメンバーと2艇でナックルフォアを体験する。

- ・指導ボランティア：内海、大谷、澤田(律)、砂川(延)、砂川(美)、関山、高嶋、待場、和田、(松下)



トライやる野外活動に参加して

内海

今回は男子生徒3名であったが、とくに山登りで生徒達は元気なもので、我々との年齢差は、どうしようもない。

校外活動であり、生徒にとっては楽しそうで良かった。

市内の全山を縦走し、市内を展望でき、歴史遺産を見たり、この町を知り、ここで生活する生徒や我々も共にこの町を好きにならねばと思います。

ところが、中学2年生は子供なのか大人なのか、心身共に中学3年生との差が大きく見える。多くの生徒を受持つ今の中学校の先生にお疲れさんと言いたい。



山と地形の名称

1. 山頂

文字通り、山の頂上、ピーク。

2. 鞍部 (あんぶ、コル)

ピーク間の尾根(稜線)上の一番低くなった(くぼんだ)部分。

3. キレット (切戸)

稜線がV字型に深く切れ落ちた場所。

4. 尾根

谷と谷を分ける山の高み。

5. 巻き道

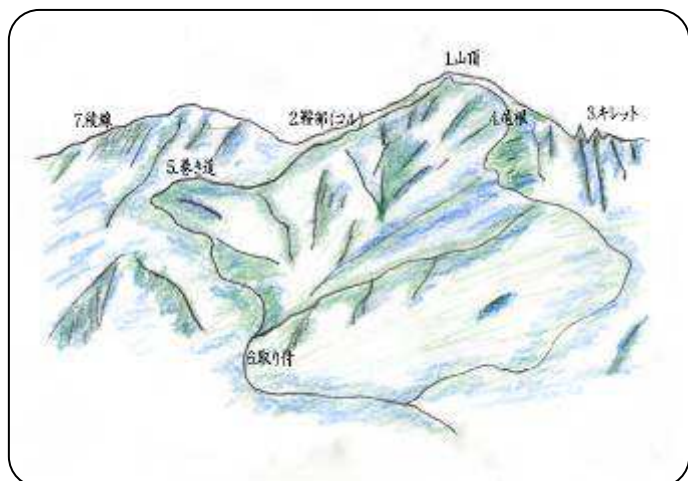
尾根上にある小さなピークなどへ直接登らず、直下を水平に横切っていくような道。

6. 取り付き

平坦な道から、尾根伝いの本格的な登りが始まる地点で「尾根に取り付く」と表し、その地点を取り付き(点)と呼んでいる。また「岩場に取り付く」、等の尾根以外の地形に対しても使う。

7. 稜線 (りょうせん)

尾根とほぼ同じ地形だが、とくに山と山をつないだ線状の領域を稜線という。



◆「兵庫労山経験交流集会 in 摩耶山」報告

砂川(延)

日 時：11月9日(土) 14:00~10日(日) 14:00
場 所：神戸市立自然の家 六甲施設(摩耶山)
参 加 者：大瀬、砂川(延)、西村、本多、山本(正)、和田

「兵庫労山の仲間と交流を深め、会活動の発展をはかろう！」という呼びかけのもと、8年ぶりとなる交流集会在神戸市立自然の家で開催されました。開催にあたり、県連盟に実行委員会が作られ3回の実行委員会により準備が行われてきました。交流集会是2日間にわたり、「Ⅰ、登山教育・教室：ロープワークで安全確保、道迷い・あなたは大丈夫!」「Ⅱ、安全対策：事故から学ぼう安全登山」「Ⅲ、自然保護：県連自然保護活動の現状及び今後取り組む内容について」「Ⅳ、機関紙・ホームページ各会会報・ホームページの現状と連携の可能性」「Ⅴ、会運営、会員拡大：会運営の悩み、課題の解決を!」「Ⅵ、アルパイン：語ろう!クライミングへの思い」「Ⅶ、ヤングメンバー：ペミカン山フェス in 六甲2013」7分科会で9日、10日各1時間45分の2回にわたり各課題毎に討論が行われました。2日目分科会の後、ミニ講演会として「山歩きの中での野鳥との出会い」と題して西宮明昭山の会の福井壽彦氏の講演がありました。彼は「登山時報」に野鳥の写真を連載中です。会を代表して6名【9日、10日：砂川(延)、西村、本多、和田、10日：大瀬、山本(正)】が各分科会に参加しておりますので、参加した分科会についてそれぞれの方から簡単に報告をしていただきました。

Ⅰ、登山教育・教室

- (1) 入会者は夏山登山教室からが多いようである…摩耶山遊会、甲山労山、神戸中央
- (2) ネットにブログを載せると反応が多い。
- (3) 岩登り教室をしだして入会が多くなった。…武庫労山
- (4) 仮入会制度を設けている。…武庫労山
- (5) 市報に案内をのせている。
- (6) 会内でロッククライミング、冬山等の教室をやっている。…神戸労山
- (7) 若い人はブログをみて入会する傾向がある。…神戸労山
- (8) 3か月毎にハイキング講座をしている。…西宮?
- (9) 新人とベテランで 1グループ4人のグループを12グループ作り1月毎に1グループが山行の計画からリーダーまでを請け負っている。→ 新人育成…北摂山の会

Ⅱ、安全対策の分科会に参加して

司会進行役として実行委員(県連常任理事)松井・兼重両氏で行われた。

- (1) ヒヤリハットはどの時点でだすのか?ヒヤリハットと事故の違いが討論された。
事故は新特別基金を請求した時、怪我をしたことが事故で、ヒヤリハットは、「ヒヤッ」とした時。
ヒヤリハットの報告は速やかに提出。
- (2) 安全対策については、1回/月・1時間の全体集会の時に、休み時間を利用して危険な部分について話をしている。
- (3) 全体の事故報告の共有、なぜ大きな事故にならなかったのか?天候・個人・力量…など、運だけで済ませずに、突っ込んだ議論をする。
- (4) 表層雪崩で11名の仲間を失った事故については、経験談を語り継がれている。

事故を起こした場合はどのような対策になっているかの討議が主に話されていたが、事故を起こさない為にはどうすれば良いか、どのようにしているかの議論があっても良かったのではないかと思います。

安全カード・レスキューカードを山行参加の時は持参し、緊急時に備えている会もありました。

IV、機関紙・ホームページ

2日目：機関誌では全体的には県連も含め、どことも予算には苦勞しているようで印刷の安い所、配布せずにホームページにPDFで配信等するなどして工夫している。「西神戸山の会」では表紙のカラーを8円で印刷できるとの事だが可能なら利用したい所だ。又会は不明だが、これからの会を永続し発展するためには、極力会員全員に投稿して貰い掲載していく方針だと言うのに感心した。当会の機関誌の評価は結構高く綺麗で、よく纏まっていると好評であった。

ホームページでは、やはり皆さんが個人情報の流失に気を遣うと仰っていたが、当会のPDFでの掲載では検索がしにくい利点があることをアピールした。

メンバーが結構年寄りの多い部会で少しホットするやらであったが、活発に活動しているのは女性が中心になっている所だと感じた。

V、会運営・会員拡大

1日目は山行企画の立案を何処でやっているか、何処で決定しているかの間に多くの会が企画委員会、登録リーダーなり又それに順ずる機関で決め運営委員会で承認を得るケースが多かった。中にはリーダー会に誰でも入ってもらってリーダーを任せるところもあり、リーダーには困らないという会もある。何処ともリーダーの養成に苦勞している様子でした。

2日目は会員拡大について、摩耶山友会から初めに会の登山教室の取り組みについて報告してもらい、教室の取り組み方や会員拡大について議論する。

教室参加者が多いところは教室からの入会者が多いことが分かる。教室の参加者の多いところはマスコミ関係に募集要項をだして新聞に掲載されることが鍵となっている。中にはマスコミがなかなか取り上げてくれず苦勞しているところもあった。

会員拡大では新入会員が無く、年々平均年齢が上がり立ち枯れ状態だという報告もあった。

VI、アルパイン

2日目：ファイントラック社の小田部 明さんの講演会

栃木ヒマヤラ研究会主催のK2(8,611)登山隊に参加して(C3に大雪が降り雪崩の危険が高くなったためアタック断念。)パネルを見ながらの説明でした。構想から三年、ベースキャンプにたどり着くまでの大変さ、天気予報は衛星を使って日本で予報する。

VII、ヤングメンバー (ペミカン)

1日目：安全登山の大切さを周知・労山の活性化を図るべく若い未組織登山者を呼び込むために何をしていけば良いかを話し合った。その結果、ハイキング教室の企画を決定。3回セットの座学・実技を実施し、労山に興味を持った人は各会に紹介する。12月準備会。2月チラシ配布。第1回実技は3月実施予定。実施の様子は順次ペミカンのブログにアップする。

2日目：アルパイン分科会と合同でファイントラック社小谷部明氏による講演会。

◆西宮山岳会 創立50周年記念式典&記念パーティに出席して

・出席者 砂川、西村、尾内

11月17日に西宮市立勤労会館で50周年を迎えた西宮山岳会の記念式典が行われた。西宮山岳会は兵庫県連盟の中で半世紀を迎えた初めての会だ。県連盟が50周年を迎えるのは2016年のことを考えると、県連盟の発祥の地といっても間違いない。西宮山岳会は1963年9月に西宮わかもの山岳会から発展的に西宮勤労者山岳会として設立しスタートしている。

(西宮労山の系譜から)

その後、1966年に西宮労山、尼崎労山、宝塚労山、神戸労山の四つの会が県連盟の結成を図っている。

当日の記念式典では、全国連盟の理事長・斉藤義孝氏、県連盟会長・喜多伸介氏、西宮わかもの山岳会初代会長・原水章行氏が来賓挨拶を行った。

50周年の記念事業として「仙人池ヒュッテ」内に記念のプレート掲げている。このプレートには1963年夏に仙人池ヒュッテに集った兵庫の若者が「勤労者の立場に立った大衆的な山岳会を作ろう」と相談し兵庫県下で初めての労山を作ったと趣旨が書いてある。

記念式典につづき桂珍念師匠による落語、琵琶の演奏や手品などがあり一気に盛り上がっていました。歴史ある創立50周年をむかえた西宮山岳会の記念式典に出席できたことは光栄でした。

砂川

西宮山岳会は全国で2番目に結成された山岳会であります。その山岳会の創立50周年記念式典&記念パーティに、登山を始めて数年の私が、出席できたことはこの上ない喜びでありました。西宮山岳会は50年の節目にあたり、当時の若者たちが、つどって創立の原点となった場所を50周年記念事業として訪ねられていました。私たちが2006年8月の夏山集中山行では三俣山荘に集中し、全国連盟の初代会長であられた伊藤正一氏にお話をお聞きしたことがありました。岳人の大先輩と繋がっていることを強く感じました。

また、自分たちの里山である六甲山を「六甲50選」として、冊子を発行されています。

登山を通じて人と人の繋がりを、西宮山岳会の歴史が教えてくれたように思いました。

西村

3年前に女性委員会で水芭蕉の尾瀬を西宮山岳会さんで行ったことがきっかけで、その年の秋に、至仏山・燧ヶ岳登山バスに参加、また、高御位山にも来て頂いたり交流が続いたことで、歴史ある山岳会の山行精神や雰囲気魅せられ、是非、50周年記念式典に参加したいと思い行ってきました。式典では、「つなごう未来へ、わかもの山岳会の熱き思い！」をキャッチフレーズに掲げられ、原水初代会長（現西宮明昭山の会会長）の創設時の話やかつて山岳会を支えてこられた人（遠くは九州から参加のOBも）の当時の話を聞き、また今実践的に活動を続けている人たちの熱い思いに触れ、地域で登山文化を切り開き、育てられた50年の歴史の重みと誇りにとても感動しました。3年前ご一緒した方とも懐かしい一時が過ぎせ、交流再開を約束し、空白が埋められよう嬉しかったです。

そして、わが愛する高御位山遊会が、西宮山岳会のように20年、30年と高御位山遊会らしさで躍進し続けられる会でありたいと図々しくも思ったものです。

尾内